

知働化研究会

知働化研究会 **QA** コーナー

【全般的な質問】 G=General Question & Answer

GQ01: 運営母体はどこでしょうか？

GA01: アジャイルプロセス協議会の中の一つの **WG** として設立されましたが、研究対象はアジャイルプロセスに限っていませんし、今後は、もっと自由で広がりのある方向を目指しています。活動や運営も有志のボランティアによっています。

GQ02: 誰でも参加できますか？

GA02: アジャイルプロセス協議会の会員であることが望ましいですが、そうでなくても参加できます。企業でも、個人でもかまいません。また、物理的な制約で会合に参加できなくても、サイトを通じての情報共有や交流に参加いただけます。

GQ03: 費用はかかりますか？

GA03: 参加費用（年会費等）は必要ありません。地方開催の合宿や、定例会合への参加の交通費とか、通常のコミュニティ活動と同様に各自の負担になります。セミナーやフォーラム開催で参加料とかが設定された場合には、別途費用がかかります。

GQ04: 組織や会則のようなものはどうなっていますか？

GA04: 設立趣旨に賛同いただき、メンバの方々により自発的に活動していただくコミュニティですので、厳格な組織や会則は当面作りません。お互いにリスペクトし合う、知的なプロフェッショナル、スペシャリストとして振る舞っていただければと思います。世話人として運営リーダー（大槻）と、コンセプトリーダー（山田）を置き、ゆるいステアリングをしていきます。

GQ05: 参加メリットはどのようなものですか？

GA05: 研究&実践コミュニティですので、皆さんがもろもろの活動から刺激を受け、皆さんの研究やお仕事の成果を上げていただければと思います。おそらく、たくさん貢献した人ほど、たくさんメリットを享受できるものと確信しています。

GQ06: 会合やイベントはあるのですか？

GA06: 概ね2ヶ月に1回程度の会合を開催する予定です。成果を広めたり、啓蒙的なセミナーも適宜開催していく予定です。無論、研究室や一部のメンバで自由に集まっていたいただければと思います。

GQ07: 会報はあるのですか？

GA07: 年に1回、年度末に、各研究の活動概要や、啓蒙的な記事を掲載した研究誌を電子的に発行する予定です。研究誌の企画、構成、内容等については、メンバの方々の協力、支援が必要ですので、よろしく願います。

GQ08: 知働化研究会（EXEKT-SIG）と知働化研究所（EXEKT-LAB）とは同じものですか？

GA08: 実体は同じです。アジャイルプロセス協議会の中の一つの **WG** として知働化研究会が位置づけられます。知働化研究所は、研究や実践を推進していくコミュニティそのものと考えてください。将来、アジャイルプロセスやソフトウェアを超えた活動がでてきた場合には、知働化研究会 ≡ 知働化研究所 となりますが、当面は、知働化研究会 ≡ 知働化研究所 です。

GQ09: 会員になるにはどうしたらよいですか？

GA09: 趣旨をご理解、ご納得いただいた後、以下の項目を記載したものを、申込みメール宛先：info@exekt-lab.org へ送信して下さい。同様に脱会もその旨を記載したメールを同宛先に送信するだけです。会員登録／削除が完了しましたら、その旨を登録メールアドレスにお知らせします。

ご所属：

ご氏名：

協議会会員の有無：(企業会員、個人会員、入会手続き予定、非会員)

メールアドレス (WG メーリングリスト登録用)：

ご要望：

【活動方法(研究室)に関する質問】 Activity Question & Answer

AQ01: 研究室とはどういったものですか？

AA01: 比較的継続的なテーマ設定をして活動するチームです。知働化研究所(会)の主たる活動実体は、研究室の活動です。場合によっては、特定の目的と時限で複数の研究室の協力を得たプロジェクトが組織されることもあります。

AQ02: 研究室のメンバになるにはどうすればよいですか？

AA02: 各研究室の運営は、研究室長に任されています。研究室側からお声がけしてメンバに入ってもらうこともあれば、各自が研究室のテーマや活動状況を見て研究メンバになりたい旨を提案していく方法もあります。研究によっては、研究室外に公開されないメンバを招集したり、企業や他組織とのコラボレーションをしていくこともあります。

AQ03: 複数の研究室のメンバになることも可能ですか？

AA03: もちろん可能ですし、多くの方は複数の研究室に所属することになるでしょう。複数の研究室長を兼務するスーパーな人もでてくるかもしれません。逆に、どの研究室にも所属しない人は、知働化研究会に参加している意味がないと思います。

AQ04: 研究室を設立するにはどうすればよいですか？

AA04: 知働化研究会のメンバであれば、誰でも研究室を設立することができます。研究テーマ、アプローチ、目標等を宣言して、自ら研究室を運営して行ってください。メンバを集めるのも、具体的な活動推進も、成果のまとめ方等全て自由です。論理的には一人研究室長兼一人研究員というもあり得ます。研究室の設立も廃止も随時可能です。

AQ05: 研究室運営上の義務や責任はどういったものがありますか？

AA05: 自発的コミュニティですから、実質的にコミュニティの中でのアイデンティティを確立していただければよいと思います。サイトを通しての交流、研究誌での成果発表や活動概況報告、諸々の学会や産業界での発表活動等ができることが望ましいでしょう。

AQ06: 知財(特許、意匠、著作権)はどうなっていますか？

AQ06: 参加される各企業、各個人の責任で行うことにしています。必要に応じ、メンバ間で契約や機密保持契約等を結んでいくことも考えられます。イベント、セミナー、研究誌等の公開情報については、世の中一般の慣習に従った常識的なものを想定してください。知働化研究会(所)としては、細かい規定を定める予定はありません。

【サイトに関する質問】 Site Question & Answer

- SQ01: 知働化研究会のサイトはありますか？
- SA01: <http://exekt-lab.org/> です。本研究会の情報共有、交流、情報発信の要になります。
- SQ02: メーリングリスト exekt-sig@agileprocess.jp と、サイトのドメインが異なっているのはなぜですか？
- SA02: アジャイルプロセス協議会の一つの WG として設立されたものであるという位置づけと、協議会の活動と重なっているということ意識するのにもこれを残しています。このメーリングリストへの登録／削除が、知働化研究会のメンバか否かと同期することになります。
- SQ03: サイトの仕組みはどうなっていますか？
- SA03: 知働化研究会（所）で独自ドメインを獲得し、当面、Google Apps で運用します。各研究室の活動等での共同作業で Google カレンダー、ドキュメント、メール等を活用することもあると思いますので、Google ID を獲得した方がよいかもかもしれません。各研究室での運用に任されることになるでしょう。
- SQ04: サイトの構成はどうなっていますか？
- SA04: ページのデザインや、リンク構成は随時洗練化されていくと思いますが、以下の情報を掲載、管理していく予定です。
- (1) 全体概要：知働化研究会の趣旨やコンセプト
 - (2) 公開情報：広報、研究成果、研究誌、各研究室だより
 - (3) ニュース、イベント：お知らせ、セミナー、会合のご案内など
 - (4) メンバ情報：メンバポジション（自己紹介や知働化との関わりや期待など）
 - (5) 各研究室情報（それぞれ自由に運営）
 - ・研究室紹介などの公開情報
 - ・研究室内活動などのメンバ限定情報
- SQ05: 知働化研究会のサイトで、プログラムの公開や、サービス提供といったことは行うのでしょうか？
- SA05: 各研究室の活動に任されていますので、場合によっては、プロトタイプのコードを配布したり、Web サービスによる特定ソリューション提供といったものも企画される可能性はあります。

【研究領域に関する質問】 Research Question & Answer

- RQ01: 「研究会（所）」と銘打っていますが、学会との違いは何ですか？
- RA01: 研究とは、本来、自由であるべきであると考えています。「知働化」のコンセプトや問題意識を共有して、各自が研究（自由研究）を進めるというのが大切です。自らの仕事や興味から、本当の問題を見つけ、それについて探求する世界です。学会誌や論文の点数を稼ぐための活動の場ではありません。また、産官学の方々のそれぞれのしがらみに捕われない活動を推進していける場を提供したいと思っています。
- RQ02: ソフトウェアや IT の調達にも開発にも携わっていないのですが参加できますか？
- RA02: 組織や業務の知識や知能というものがどういうものかを探求し、コンピュータの力を活用せずに仕組みとしてシステム化（組織化）することも知働化の一つの形です。むしろ、従来ソフトウェアや IT を使っていない領域にこそ、新しい研究領域があると考えています。是非、ご参加ください。

- RQ03: ユーザ企業でソフトウェア開発のことは知らなくても参加できますか？
RA03: 無論、大歓迎です。ソフトウェアや IT の利活用の領域の「様相」にこそ、研究対象があると考えています。
- RQ04: 大学の研究者でも参加できますか？
RA04: 参加できます。理論検証の場、実証の場として活用ください。
- RQ05: 開発企業のエンジニアでも参加できますか？
RA05: 参加できます。日頃のプロジェクトの不条理を見極め、ソフトウェアの本質を探り、次世代で生き残れるエンジニアになってください。
- RQ06: メディアや出版社でも参加できますか？
RA06: 参加できます。新しい潮流、次世代の芽を発見できると思います。また、知働化研究を世に知らしめる役割をになっていただければと思います。
- RQ07: 企業の窓際、リタイヤした人でも参加できますか？
RA07: 参加できます。是非、新しい生き甲斐を見つけ、第二の人生を歩んでください。

